

め

重大な病気が隠れていることも

ま

い



新さっぽろ脳神経外科病院
藤重 正人 副院長

普段生活している中で感じることもあるめまい。一口にめまいといってもさまざまなパターンがあり、その背景も単純ではない。とくに脳の病気に関係があり、注意の必要なめまいについて、新さっぽろ脳神経外科病院（厚別区）の藤重正人副院長に解説して頂いた。

大きいのは種類に分類できるめまい

人は外部から情報を入手し、その情報を脳で整理して四肢を動かし日常生活を送っている。このとき、自分の頭の中の位置情報と実際の位置がずれることで生じる異

常感覚が、めまいとして感じられる。目から得る視覚情報と前庭器から得る平衡情報はその代表的な情報であり、これらの情報を統合して人は自分の位置を把握している。

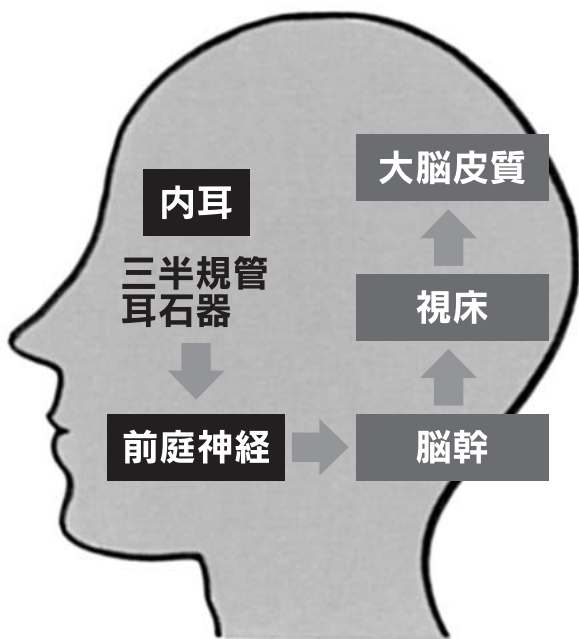
従って、こうした情報を入手する器官が障害されると、感知する位置にずれが生じる可能性がある

り、情報が集積され統合する部分や、情報の通り道に異常があってもめまいの要因になると考えることができる。

こうしたことから起こるめまいは、大きく三つに分類することができるという。

「一つは立ちくらみで、眼前景黒感ともいいますが、気が遠くなったり、ふわっと引きずり込まれるような感覚です。もう一つは浮動性めまいといって、ふわふわした感じがするタイプ。さらにもう一つは回転性めまいといって、ぐるぐる天井が回っているような、自分の周囲が回っている感覚です。めまいは、大まかにこの三つに分けられ、あまり心配しなくてもよいケースから、何らかの病気が隠れているケースまでさまざま考えることができます」(藤重副院長)。

順に解説して頂こう。まず立ちくらみは、急に立ち上がったときに感じたり、突然目の前が暗くなるような感覚になるものだが、これは脳へ行く血流が一時的に不足すること起こる。若年層であれば、自律神経系の問題から起立性低血圧によってめまいが起こったり、また、貧血や低血圧、低血糖



平衡感覚をつかさどる器官は、内耳から脳までつながっており、そのどこかが障害されるとめまいが起こる

めまいの種類



気が遠くなるような
立ちくらみ



ふわふわした
感じがする
浮動性めまい



天井がぐるぐる回っているような
回転性めまい

など内科的な問題から発症することもある。後述するが、立ちくらみに、運動障害や感覚障害など複数の症状が現れる場合は、脳の虚血疾患が隠れている可能性がある。ので注意したい。

浮動性めまいは、これも脳へ行く血流が不足して起こるケースや自律神経系の疾患から発症することもあるという。

回転性めまいは、最も考えられるのが耳鼻科的な疾患。耳鼻科領域には前庭神経や三半規管など平衡を司る神経系が集まっているので、この部位が障害されると回転性のめまいが起こりやすくなる。頻度は少ないものの、良性脳腫瘍の一種である聴神経腫瘍が神経を障害したり、血管が脳神経を圧迫する神経血管圧迫症候群がめまい

の要因となることもある。

**めまいの他に症状が
みられるケースに要注意**

めまいは日々の中で、決して珍しい症状ではないのだが、脳梗塞、脳出血、脳腫瘍といった重大な病気が隠れている可能性もある。安易に放置しておくことは禁物だ。

疑われる症状

ろれつが回らない、
言葉が出ない



片側の手足や顔
のしびれ、感じ
方が鈍くなる



片方の目が見えに
くい、片側にあるも
のが見えない



「めまいを感じた際、すぐに病院を受診してくださいとまではいいませんが、脳の異常が原因だとしたら、障害のリスクは大きなも

のとなってしまう。MRIやMRAなどの画像検査で容易に血管の状態を確認できますので、一度は受診することをお勧めしま

す。ただし、めまいや立ちくらみと同時に、片側の手足や顔などの運動まひやしびれなどの感覚障害、言葉が話しにくい、ろれつが回らない、片方の目が見えにくい、などといった症状が現れた場合は要注意。脳梗塞の前触れ症状である、一過性脳虚血発作（TIA）の可能性があります。放置すると、脳梗塞に移行する可能性があるため、すぐに受診するように心掛けてください。」

脳梗塞の前触れ段階での早期発見につながれば、抗凝固剤や抗血小板剤など血栓を作らないための薬物療法で治療することが可能となる。病気を悪化させないためにも、こうした知識を持つておくことは大切だ。

耳鼻科疾患をはじめとして、脳神経外科領域以外にも多彩な要因が考えられるめまいだが、近年はメニエール症候群を含め、心因性の要因から発症するケースも増えているという。めまいはよくみられる症状であり、気にならなくなることもあるものだが、長時間持続したり、めまい以外の症状を伴う場合には早めに医療機関を受診したい。

